



第16回eco検定試験総評 (2014.7.28)

7月27日に行われたeco検定試験の公式な回答はまだ発表されていませんが、問題と弊社調べでの解答速報をもとにこれまでの試験との変更点や分析をまとめました。

■受験者数

	受験者数	実受験者数	合格者数	合格率
第15回	31,939	28,663	17,172	59.9

※第16回の受験者数はまだ公表されていませんが、例年通りの人数と見込まれます。

■公式テキスト改訂について

公式テキストは2年に1回のペースで改訂されます。今回の第16回は第4版として改訂後の初の試験でした。これまでの改訂は、章立ては変えず中身の用語などを一部増減させる程度の改訂がほとんどでしたが、今回の改訂は章立ての組み方から変更するという大規模な改訂がありました。

この大規模な改訂により新たな分野として「震災関連・放射性物質」が加えられたことも今回の試験で注目された点だったと言えます。

■大幅な改訂の背景

前述のような大規模な改訂の背景には2011年の東日本大震災とそれによって発生した福島原発事故があったと思われます。eco検定始めて以来の大きな災害であり、環境に関する検定試験としては公式テキストに1つの分野として加えざるを得ないものだったと思われます。

■予想と結果

	予想	結果
出題形式	大幅な変更なし	第7問が3択型の新形式で1問2点の出題になった
時事問題	弊社作成の時事問題対策用語集で取り上げた用語から直接正解に関するものだけでも11問出題	
「震災関連・放射性物質」分野	あまり出題されず、出題されても用語を知っているかを問う程度の出題と予想	4問出題され、内3問は弊社予想通り用語の定義を問うような単純な出題

■今後のeco検定

eco検定を勉強することは環境に関する世界的な取り組みや環境問題のメカニズム、CSRに関する用語など幅広い知識を学ぶこととなります。今回の試験でも、温暖化のメカニズムや、CSR、世界的な環境に関する動きに関する出題が多々ありました。

今後2020年から世界的な動きとして気候変動枠組条約に関して新たな取り組みが行われることが決まっています。また、日本国内でも企業の社会的責任(CSR)への関心が強まっています。こういった社会の流れの中でCSRの取り組みの一環として社員への環境教育を行っている企業様も多くあります。eco検定はそういった環境教育のツールとしても有用だと言えます。